



渡辺 大直

春一番が吹いたというのに、牧場公園はまだ雪を被り、春はまだ遠そうだ。

しかし、4月にオープンを予定している但馬牛博物館リニューアル工事に残された時間は、あと1か月ほどになってしまった。オリンピックのスケート選手なら、最終コーナーを回ってラストスパートといったところだろう。

展示室の中央に置き、プロジェクションマッピングのスクリーンにもなる「田尻」の巨大モニュメントを作っている工場に行ってきた。モニュメントは下地ができた段階だったが、その大きさに目を見張った。

ワクワク待ち遠しい春



プロジェクションマッピングのスクリーンにもなる「田尻」の巨大モニュメント



展示物を作る作業が進む但馬牛博物館の展示室

く、彼の子孫である畜産技術センターの種雄牛たちにモデルになってもらった。ひよっとするとそのせいかも知れない。でも十分インパクトは有りそう。

プロジェクションマッピングの投影テストを見た。待機映像。その巨大な「田尻」が花が舞う中に立つ。小鳥が飛び立ち、尻尾を振って虫を追

う。「尻尾の動き方がらしくない」と注文すると、すぐ修正し、牛の尻尾の動きになった。

プロジェクションマッピングを見るのは初めてだが、映像技術の進化に驚いた。但馬牛博物館では、この「田尻」に映し出す映像で、但馬牛のことを紹介する仕掛けだ。博物館の建物改修工事はほ

ぼ終わり、天井の高い、広い会議室のようだった部屋に壁面パネルが設置されると、展示室らしくなった。「できてきたなア」と思い、何故か嬉しくなる。

そして頭の中で、「田尻」の巨大モニュメントを置き、骨格標本や剥製、展示テーブルを配置してみる。するとなんだか狭く感じ、「大丈夫かア」と不安にもなる。そんな孫を見る爺さんみたいな自分に気づき、慌てて首を振る。

展示物を作る作業も大詰めになった。展示パネルや説明ボードの記述チェックなど、老眼が進み、集中力の低下を感じ始めたが身には、少々つらい作業が増えてきた。それでも多くの人たちに協力していただき、アイデアや意見をもらって、形になっていくのが楽しく、ワクワクする。春が待ち遠しい今日この頃だ。

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。